

気象庁 59 型地震計波形記録を用いた学校教材の開発 (準備編) Class room excercises using the JMA-59 type seismograph records.

岡本 義雄^{1*}, 古田 佐代子², 廣田 伸之²

Yoshio Okamoto^{1*}, FURUTA, Sayoko², HIROTA, Nobuyuki²

¹ 大阪教育大学, ² 大阪管区気象台

¹Osaka-Kyoiku Univesity, ²Osaka District Meteorological Observatory

気象庁 59 型地震計は長年にわたって使われた気象庁地震観測を代表する地震計である。筆者らはこの地震計による波形データを学校教材, とりわけ中学・高校むけの理科の教材として活用することを考えた。

主な活用法は, 理科における地震の単元のうち, 1) 地震波形記録の特徴の読み取り 2) 初期微動継続時間 (PS 時間) の測定, 3) 大森の距離公式を用いた震源距離の推定, 4) 多地点観測からの震源決定, 5) マグニチュード (M) の推定である。本地震計の波形を使うことのメリットは, 1) 通常用いられる速度波形ではなく, 変位波形であり, 地動と記録との照合がとりやすい。2) インクを使った記録は伝統的な地震計のイメージを生徒に伝えられること。3) 倍率が 100 倍, 1 分間のタイムマークが 6 cm と教材として用いるときのスケール置換がたやすいことなどである。具体的に教室で上記の実習に用いることのできる教材として, 大阪管区気象台保存の波形データから比較的最近の地震を次の基準で取り上げ, 関連する隣接気象官署の波形データとともに波形教材とする。

地震選択の基準は, 1) M の式が使える比較的浅い地震であること。2) 振り切れていないこと。3) 初期微動の読み取り, 主要動の最大振幅の読み取りが容易なこと。4) PS 時間を用いた震源決定が容易であること。などである。

講演ではこれらの基準に基づいて選択した変位波形を用いた教材の準備状況を報告する予定である。

キーワード: 気象庁 59 型地震計, 波形記録, 震源決定, マグニチュードの計算, 教材

Keywords: the JMA-59 type seismograph, seismograms, hypocenter determination, magnitude calculation, educational tool, class room exercise